

## 要旨『日本文化原論永続思想主体性学』

ご挨拶

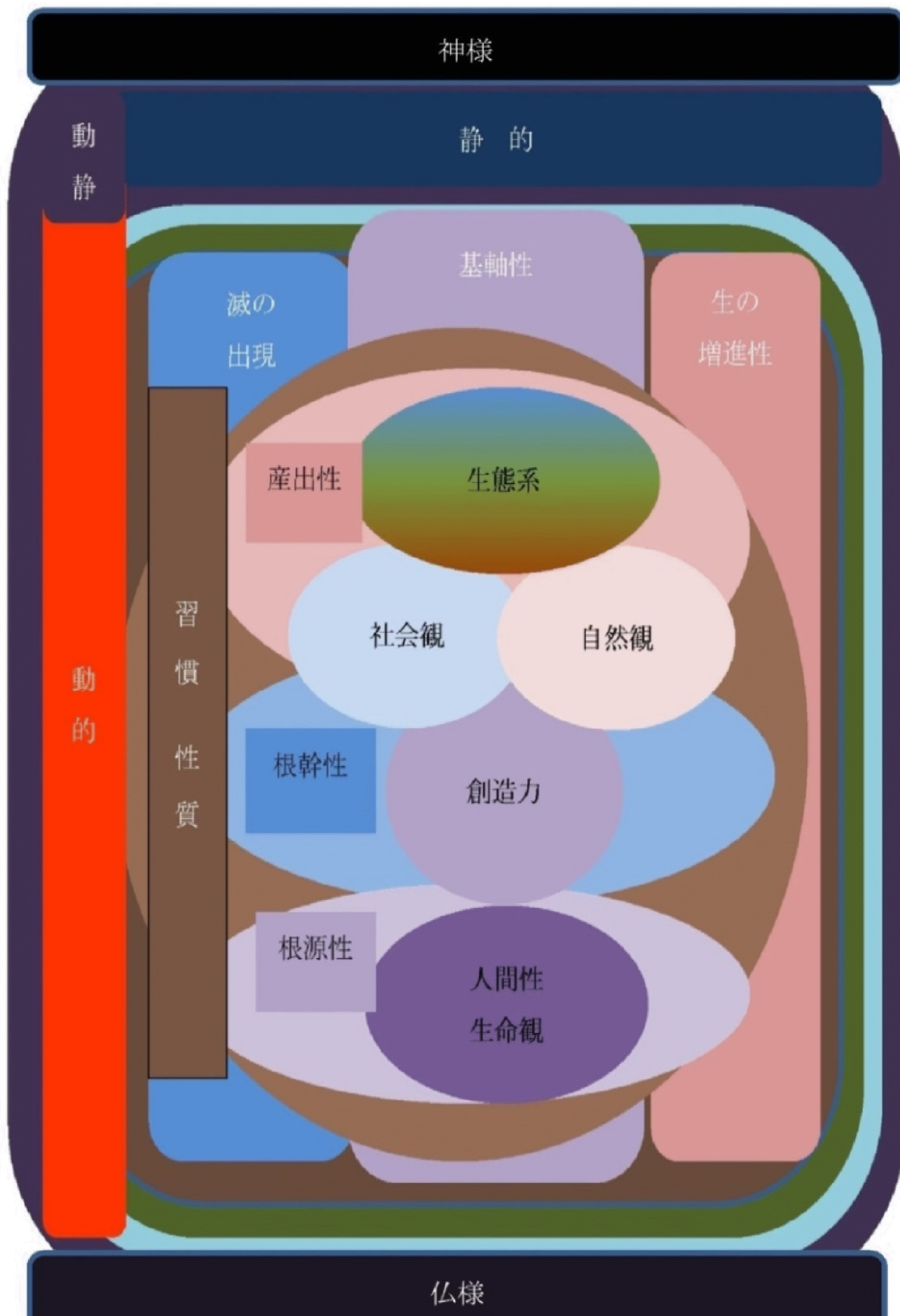
---

### 時代的背景と哲学文化

#### 1)人間観

##### 1-1 良好な習慣性

道に落ちている棒切れでも人を殺傷させる力を生む。人間の感性や意思の健全性が変わらずに対象と用途の適正を引き出し道具や装置などの創造の健全性を求める人間性が土台に培われ、特定技術力と自然観と社会性を進め生態の健全と永続の循環へ進む。根源且つ長期性の観念を集約し人間一般を揃え長らく良好な生態の精神が表される。地球をいたずらに活用する人間の傲慢が増し良好な生態から外れた技術や生産や社会性や自然観と連鎖する。土台となる人間の健全性を重しと固め科学技術と自然観と社会性と生態の同一基準と運用に回る普遍的不変の原理に集約される。人間の需要側の吟味を経て自己の側の変わらぬ良質の見解を整え技術や自然や社会の基調を起こす哲学文化が描かれる。時代的な変動の割合が増す環境が出現し慌てふためき歪な需要が強まらぬ根源からの適正を求め「あって良い事・悪い事・両面の相関」という創造の包括観と中身を生む。供給観点に偏り人間性が見解が弱まると混乱と制御不能の悪性が広がる。人間の良質を動力源に自然と社会を牽引する生態循環を遂げる。「人間とは何か」答えを掴み未来永劫の性質や意志を表す概念を導出し代を跨ぎ繋がる普遍的不変の哲学文化を産む。自然や社会に向け人間の在りたい姿を説明する態度が起こる。外界への説明に留まらず、自己へ投げかけ適正な見解と納得と信用を作る過程が形成される。神仏を想定し不足はないか天と先祖に問い最良的生を求める態度が作られる。



## 1-2 静的不動性と動の変容

こうした抽象性の概念図に集約される。良き習慣と精神性が変わらずに謙虚な心身と観念の相関を有する平等の理性を有する人間が持続する。精神の良質の実態を抱けるように意味の明瞭に及ぶ観点と文脈が以下のように出現する。力に相応する責務の均衡を求める動の変容と変わらぬ精神性が稼働する。対象とする利益と責務の意識の均衡に平等の精神が現れる。利己的な欲求を遂げる為に権力や財力を用いる相関が増す事のなき公なる利益と実現へ及ぶ力の活用が成される。動の変容と静的不動の関係が存続する主体性と人間性とその習慣となり普遍的不変の概念が展開される。マスコミを多用し露出狂の如き歪な手法が増すと利己性の強い精神と態度が浮かび上がる。真に良好な利益と実現の習慣から外れた歪性が顕在化する。物性への異様な依存と生存と成長の習慣に陥り力と責務の不均衡を広げる不平等の精神が形成される。借金や投資への依存を高め身体感覚との乖離を拡大し頭と体の分離と精神の病んだ性格が進む事の無き心身と観念の有機的な習慣を主体性や人間性、生態系の変わりづらい概念と起こし長期利益と実現の様式と現れる。異様な資本主義と物質依存と自存の強まる精神の病理を基調とする秩序が増幅する事の無き公助の基準と共助と自助の相関が産まれる。個々の体験から共通性原理の導出と稼働を起こし次第に公助なる普遍的な基準と高まり 3 つの相関が作られる。成熟が増すほどに自助を求める前段に共通や普遍の観点が備えられ自助の在り方に回る。異様な資本主義と物理依存の激しい自助なる観念と稼働の人間性が強まるか広げるようであると狂った社会性と自然観と生態の軌道が広がる。私的に権力を用いる割合が増し力と責務の不均衡を拡大させる精神の病んだ人間性を生む。根源性の狂いが増す事に陥らぬ静的概念と動の変容性の相関と習慣に普遍的な不変性の理念の中味が産まれる。根源性の歪な「自由主義や自己責任論」を備え稼働させる現象となり可笑しい自助の観念と解釈が作られる事に対し静的不変と動の変容の相関の見解に精査し健全な理念と展開へ回る。

## 2)哲学文化政策

### 2-1 普遍的不変性

大局的長期性の観点としては、「人間を土台に有形無形の道具や仕組みと社会と自然の健全と永続を求める」等という生態全域に視界を持って健全性の観念が産出される。これが長期性の軌道や方向感を与え人類同一の理念と集約される。各種争いや衝突という利害対立について大局且つ長期の全体像をもって調和を引き出す根源的な精神や感性を宿す人類共通の意思が稼働する。人間性、特定技術、社会性、自然観、生態系、

### 2-2 根源的土台性となる人間観

人間観は精神と身体と観念の有機的相関と習慣を有する姿において健全な生命観と精神性が宿る。自存性ばかりに偏らず外界の生存を含む共生の理性を生み一方向の略奪に偏らぬ再生産と持続の精神や感性の稼働する人間性となり変らぬ基礎土台性を生む。このような根源性から自然と社会という対象性に反映され精神性と身体性と観念性の有機的な相関と習慣を備え人間の根幹を作ると共に自然と社会と生態全域の健全と永続の軌道が形成される。

### 2-3 今日性の対面

人口減少、少子高齢化、地球環境問題、グローバル化、

### 2-4 直接的課題と施策

今日、IT 化という情報技術の発達が見られる。この技術はどのような性格を有するか。直接的には情報集計と検索と計算の早期化による効率性の向上と利便性を遂げる事に効用が産まれる。負の側面には道具の強い依存に陥り自然や社会との直接的な交わりを遠ざける事による根幹性の崩れを招き精神不良への危惧が起こる。直接性に対し間接性の観点や文脈、動態を引き出し直接的な作用を配し中長期の観点を加えた特定技術の扱いをもって適正な創造へ成長する。人口の一極集中による弊害が中期観点を生む。「自然と人間との距離感の広がり」という側面が人間と生態の適正と乖離する長期的観点を生む。

### 2-5 間接性と中大局性

人口が程よく分布し各地における適当な成長を内発的に行える基礎変数としてある程度の人口を持ち各需給関係の適正に回る相関が出現する。あまりに特定空間に集中し過疎地や人

口減の空間が多発する生態にあっては将来的長期性の成長軌道を外した歪性への危惧を生む。同時に生活習慣も都市という過密地帯での住居の在り方に人間と人格形成上の負の因果性が起こる。マンションという効率化された建設様式の利便性に優れた形も、どこか自然環境との乖離を広げバーチャル感覚と無機質性を起こし人間の精神の劣化や身体の弱まりという負の因果を生む。

## **2-6 長期性：空間の健全と永続**

あまりに無機質性の物理感覚過多の体質が強まり根源且つ根幹の崩れた人間の性質による社会性と自然観と生態を進める軌道には長期周期性が映りづらく、この面からも適度な人口分布と都市や町の在り方と自然環境との接点と調和性を求める発想が形成される。

## **2-7 根源的な精神の健全と特定技術や現象の健全な性格付け**

情報技術の向上からどこの空間にいても情報の入手が容易化し、東京等の都市に必ずしも集中し仕事を行う必要も減少する。広い観点から人口分布と各空間の持続的な存続と成長に資するように基礎変数の適正な割合と配置を図り人間と自然と社会の健全と永続の軌道が形成される。

## **2-8 抜本性の施策と創造性**

小手先の施策や利害に偏り、歪な反応が強まらぬように人間と生態の一般性等という根源からの適正原理を引き出し各種の特定技術や特定現象の性格付けを図る長期性の不動的なビジョンの形成と部分性の意味合いと本質性を規定し、根源且つ根幹と部分と全体の産出性と稼働と制御の包括的な創造体系に集約させ、健全な基準の整備と精神性の変わらぬ存続と生態の適正軌道と循環を有する道筋が作られる。あまりに短期性の観点に偏り目先の利害に過敏化し偏狭的な利害が高まり混乱性の広がりや負のスパイラルを招く弊害が出現する。歪な人間性による自然観と社会観の崩れと生態の悪循環の仕組みが広がり深まるようであると深刻な未来と先行きが高まる。誰にも共通する根源性の観点の厚みを増し根源から根幹と全体と部分と習慣の一巡的生態像を引き出し長期性のビジョンと浸透し一定の落ち着きを有する基盤上に短期的利害や中期的観点の適正を導出する精神性が稼働し確かな軌道と創造に反映される。

## 2-8-1 根源的普遍性

- ・基礎土台性：根源性：人間性、根幹性：心身と観念の有機性と習慣、
- ・特定性：特定技術、社会性、自然観、・全体性：生態系、

## 2-8-2 空間と生態の健全と永続

根源的普遍：良好な精神性、

基礎変数：人口分布、年齢構成、自然環境

各種需給：需要と供給の均衡と持続、

集約的ビジョン：人間と自然と社会と生態の健全と永続、

## 2-9 哲学文化政策

長期性のビジョンに確たる信頼や信用が進む事にあつて精神不安から混乱的な人間性の悪化を予防し短史的利害と対立や犯罪性の現象に外れぬ対策を強化する施策に、哲学文化政策という創造の性格が形成される。「主体性と生態の一般法則性」等という基準を引き出し万人的に共有される原理と広がり家計や事業体、地域や国家、国際社会、人間と自然と社会と生態系等々の各対象範囲に同一的観点と一貫した精神と身体と観念の有機的な相関と適用が促進され自他との健全な持続性を実現する。長期性に信頼性を高める上で歪な盗み症等という悪性を放置すると長期的な信頼性を喪失する。歪な短期利害と犯罪性に外れ自存を求めるサイバー犯罪等という現象をやる性質に問題視が高まる。長期軌道を喪失させる歪性の対処を進め長期利益と軌道が増す創造の包括概念と運用が要る。姑息な発想と手法を多発させ偏狭な利益を求める悪性を放置すると、中期や長期の軌道が減退し短期利害の意識が強まり悪性への対処に意識が高まる。堂々とした精神性の崩れた混乱性の現象は長期性の軌道を萎ませる。技術を悪用する根源的精神不良に大きな力を与えると中長期の利益を減退させる。根源性の確かな資質を有する人的性格に空間の中心性を持たせ、根の健全性や盤石性の基に堂々とした心身と観念の稼働と持続と習慣を遂げる。生態の根源且つ根幹が盤石であつて、長期性の概念が意識に存続し稼働性に回る。小手先発想と手法は信頼性の醸成を萎ませる。物質依存の激しい短史的な利益追求の性質は長期利益を損なう。変動性の高まる環境に及ぶほどに根源と根幹の健全性が望まれる。そして、確かな発想と施策が稼働する。良好な概

念の導出が有効な施策と働く。強い科学技術には確かな思想や世界観、哲学文化が必須となり両輪と回り生態の健全と永続の軌道を遂げる。

|                                                                                                                 |                                                                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div>静的</div> <div>動的</div>                                                                                     | <div>理念</div> <div>2-1 普遍的不変性</div> <div>2-2 根源的土台性となる人間観</div>                                                                        |
| <div>現況、課題</div> <div>2-3 今日性の対面</div> <div>2-4 直接的課題</div> <div>2-5 間接性と中大局性</div> <div>2-6 長期性：空間の健全と永続</div> | <div>動静</div> <div>方法と検証と改善</div> <div>2-7 根源的な精神の健全と</div> <div>特定技術や現象の健全な性格付け</div> <div>2-8 抜本性の施策と創造性</div> <div>2-9 哲学文化政策</div> |

### 3)縁起物制作と思想

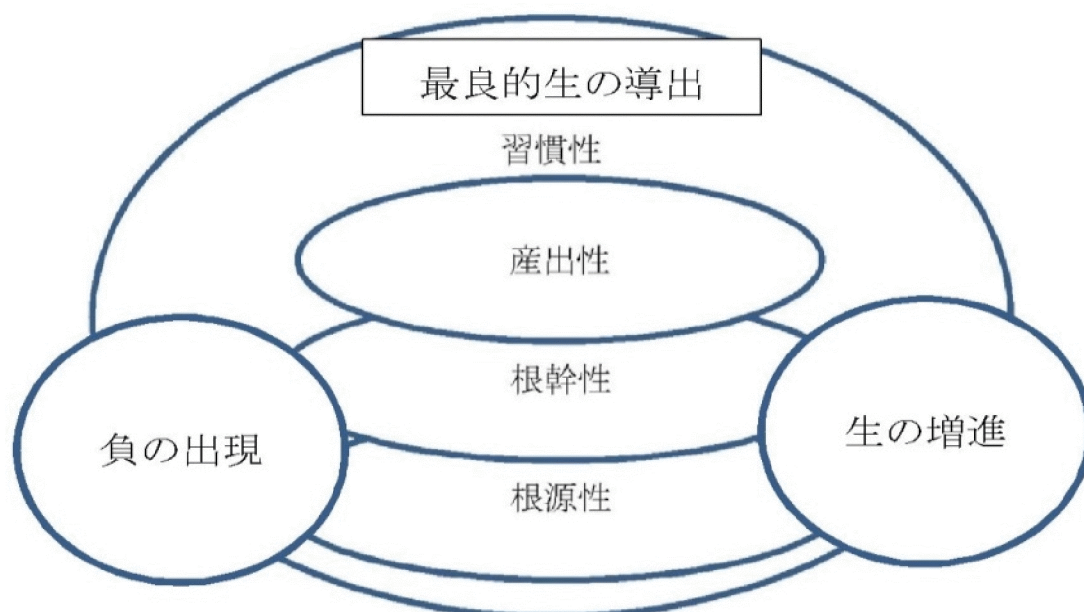
飾り熊手は「家内安全と商売繁盛と健康長寿」を祈願として縁起を担ぎ購入するものであり、製品構成に基本祈願を反映した部材を付け全体の纏まりを生む。祈願自体を製品に表すと共にこれを遂げる方法へ思索が重ねられ、思想や世界観を形成する過程が作られる。生態の根源性や根幹性へ思慮が及び、動力源と思考と活動法則という根幹性を引き出し、部分と全体の産出性を果たす習慣や規則性の持続を遂げる主体性と生態像と及び祈願を実現する人間像に展開される。3つの基本祈願を人間の根源性に対照すると「生の導出性と滅の発生」という生滅不可分という矛盾的な感性を抱きより良き生を模索し産出する精神に健全な心身性を生み健康長寿という基軸的な性質の存続に及ぶ法則が定立される。生滅不可分という感性を抱くことの出来る変わりづらい精神性に動力基盤が起こり負を乗り越える生の導出へ思慮を重ね、良い生の導出へ力を変換し産出性に反映される。こうした性質を有する人間性に家内安全と商売繁盛という相反的なベクトルを調和と上昇に及ばせる健康長寿を遂げる祈願と実現の様子が描かれる。

1. 全体性：基本祈願「家内安全・商売繁盛・健康長寿」
2. 根源性：「生の増進・負の出現」矛盾的感性
3. 根幹性と産出性：良い生の産出「最良的生の導出」
4. 習慣性：持続的性質「活動法則性」

このような体系的法則性を有する人間性と生態系を遂げる変わりづらい良質を作る思想や世界観の形成へ及ぶ。「生態の健全と永続」という思想体系が産み出される。

#### 4) 普遍的不変性

生滅的因果について矛盾の感性が弱まり生の増進という一面に偏る精神や感性に陥り、無機質物理の体質が増し根源性が変容し歪な人間と生態を産出する因果が映る。物質文明という潮流における功罪が整理される。根源的な観点から適正を求める調和と持続の創造へ向けられると長期的な生態の健全と永続軌道が産み出される。人間の変わりづらい因果性の見解を土台性に持ち、根源と根幹の基軸性を表す概念を引き出し正負の側面と最良性へ向けた発想と言葉や概念の導出と現象性へ及ばせる相関と体系を起こし健全な人間像と生態像が描かれる。生態の原因と結果の因果を解明し「何処をどうするとどうなる」という見解に集約される。正しい人間と生態の解明を進め良質性を求め作る確かな方法に回る。こうした発想が動力源に当たり発想や感性自体が歪に変容すると思考と活動の規則性が歪な形に変化し悪性の結果を重ね広げる性質に陥る。根源と根幹と産出(部分と全体)と習慣という生態概念を不動性の基準に起こし、時々々の内外環境に対面しながら評価性と予測性に回り不動的な人間の良質を根に、方法の妥当性に連ね生態の永続へ及ばせる算式に固まる。普遍的不変の基準と定まり人間と生態の中枢が構成される。根の歪な性質に大きな力を委ねると不健全性が直接間接に広がり深まる生態を招く。



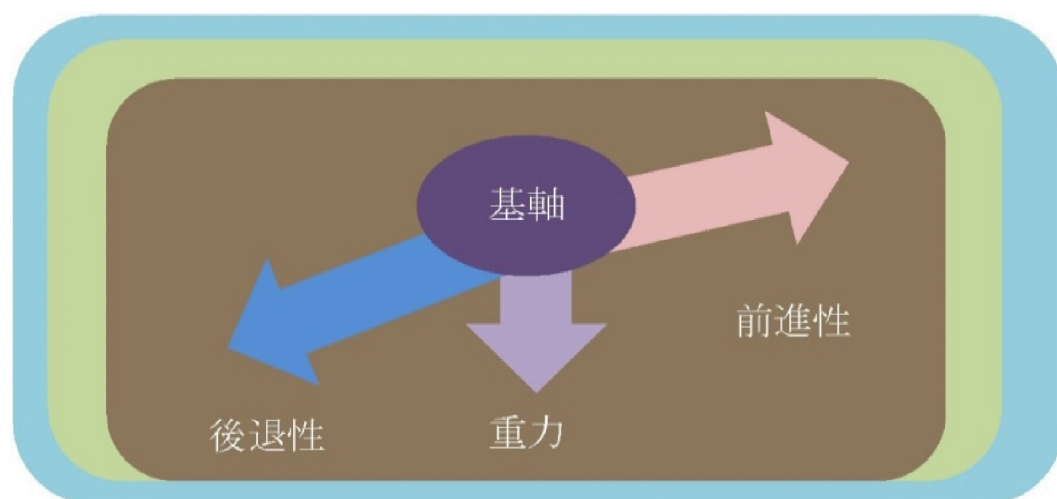
## 創造法則と沿革と産出

### 1)創造法則

#### 1-1 適正基準と原理の導出

あれもこれもとやりたい事が思い浮かぶ。自己の所有する資源との兼ね合いを見て、無理のない範囲の創造と制御を遂げる発想に及んで、欲求と観念と身体の相関と制御を起こす規則性が稼働する。生の増進性と負の出現、両面を浮かべる基軸的な観点を合わせ持つて前進性と重力性と後退性のベクトルと総和の体系観が産まれる。適当な範囲の領域と稼働を図り内外との健全な精神性や感性を遂げる精神性が出現する。こうした形になり、「生命観や創造観、社会観や人間観、生態観」といった観念と中身と実感が作り出される。普遍的不変の抽象的な原理として表現すると「生滅不可分と最良的な生の導出」等という言葉が出現する。

|         |                                     |
|---------|-------------------------------------|
| 具象性     | あれも、これも、やりたい、                       |
| 抽象性     | 前進性・重力性・後退性、<br>生命観や創造観、社会観や人間観、生態観 |
| 普遍的な不変性 | 生滅不可分と最良的な生の導出<br>精神や感性の健全性、        |



#### 1-2 過不足の評価

精神や感性が歪化すると、あれもこれも虫食いの的に外界の栄養を盗み出し自己の生存を求める犯罪者という性格が形成される。精神や感性の不良が、発想や思考、観念や言葉の形成と活用や身体性の因果性を出現させる。内面性が外形性に表面化する。盗んでは食い散らかし

生存を求める精神や感性の破綻者に陥らぬ健全な人間性を求める根源的な欲求と具象施策が産まれる。歪な管理型の創造性に陥り上前を撥ね搾取性の発想と手法が強まり、歪みの激しい資本主義や自由主義等という様子となって各種の力と活用の習慣や規則性が広がり、不快性の精神と感性の増幅する負のスパイラルを招く生態系が想起される。これを放置すると、戦争やテロ、自然災害等という大きな負の影響を生む現象へと向かう。

### 1-3 思考と分析、因果性の導出

「専守防衛」等という理念も軍事的な現象に留まらず人間の性質へ視線と思慮が重ねられ、現象の根源性から適正を問い直接間接の現象の広がりや因果の領域観や体系観と纏められ、上流からの適正策を投げ好循環の連鎖性を果たす知恵が注ぎ込まれる。抽象的な理念に偏り準抽象性や具象性の観点が萎むと頭と体と精神の分断性の広がる不健全な精神性や感性を宿す人間性が出現する。慢性的な歪性と嵌り常識のような広がりを作る事のなき、長期的な適正尺度が盤石であって過不足性の客観化と方法の妥当性に連なる。歪な性質を中心的な配置に備えるとその常識が空間の基準と働き歪性の拡大と増幅の基調が進む。エネルギー不均衡性の広がりや二極的な構造の拡大という現象に現れる。

### 1-4 適正施策の導出

「根源と根幹と産出性(部分と全体)及ぶ規則性」という生態概念を導出し変わらぬ普遍的な尺度を起こし現象の適用と評価予測、適正策の考案と実施と検証と改善の持続する主体性原理を引き出し長期利益と実現の基調が進む。適正な対策や予防の施策へと思慮と作為が具象化し予めの健全な人間性や生態像を引き出し自他との共有される基準尺度を明瞭化させ歪性の広がりや及ばず、健全な基礎基盤性の基に適当な前進性や成長性を求める創造法則性が稼働する。人間の長期的な様式と整備し自然律と働き、変わらぬ健全な精神性の存続が成される。長期性のインフラと固まり中期や短期の利益不利益の観点や概念と中身が形成される。健全な哲学文化観の形成と稼働の創造が促進される。サイバー犯罪等という今日的な犯罪に精神不良が顕著に出現する。身元を伏せリスクを取らずリターンを求める人間性の悪化は深刻な負の事態になり淡々と取り締まりを図らぬと根源と根幹の病が全体へ回る。適正策が求められる。

## 2)沿革と産出

自己の沿革や習慣から変わりづらい価値観が作られる。その中の一側面として創造観という習慣法則の見解が作られる。生産における一般法則性を定立すると共に短期的な現象や時代背景などという環境面への中大局的な認識と評価が出現し特定の関心や方策を導出し「哲学文化」等という観点や領域観の形成と提起と訴求を図り方法的な産出性に至ります。外界との共感性や納得感に及び作る物事の効用感と検証性という相互性に及んで需給性を実現し社会性と公益性を含んだ人間と生態の健全と持続の世界観を実現する道筋が浮かび上がります。

・ 著者紹介(p926)・ 価値観、創造原理の導出、・ 短期的な観点と評価性、因果の分析、中大局的な時代背景認識、・ 適正施策の導出、創造力の集約、具象の様式の精査、・ 外界へ提起と稼働と検証と相互性、・ 社会性と公益性、生態の健全と永続、

## 3)本書の全体構成と目次

当該創造は良好な精神性を表す主体と生態の姿を導出する事にあります。個々の思索や施策を重ね集約概念を産出する事に意識を注ぎ表現を導出する活動が図られました。一部で概ね最終的な形が纏められます。

|        |                                               |      |
|--------|-----------------------------------------------|------|
| 一<br>部 | 挨拶 時代背景と哲学文化、<br>創造法則と沿革と産出、                  | 1-36 |
|        | 一編 創造性の範囲、二編 人間学 三編 主体性原理と永続思想、<br>四編 哲学文化政策、 | 37   |

|        |                                                       |                                              |                                                                       |     |
|--------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-----|
| 二<br>部 | はじめに 一編 日本文化原論永続思想 二編 長期性の思想<br>三編 思想の要点、四編 実践性、五編 解説 |                                              |                                                                       | 175 |
| 三<br>部 | 文化構想 集約                                               | 纏め<br>一編<br>二編<br>三編<br>四編<br>五編<br>六編<br>七編 | 永続思想<br>哲学文化<br>文化文明観<br>精神性<br>生命観<br>人間と生態の健全と永続<br>哲学文化政策<br>人間と生態 | 373 |
| 四<br>部 | 文化構想 集約                                               | 八編<br>九編<br>十編                               | 文化ビジョン<br>哲学文化政策総論<br>哲学文化政策                                          | 564 |
|        | 文化構想 基礎と全体                                            | 十一編<br>十二編<br>十三編                            | 要旨<br>日本文化原論永続思想<br>文化構想                                              |     |
| 五<br>部 | 文化構想 各論                                               | 十四編<br>十五編<br>十六編                            | 標準<br>文化システム<br>哲学文化政策                                                | 721 |
|        | 文化構想 実践                                               | 十七編<br>十八編<br>十九編<br>二十編                     | 文化構想<br>主体性原理<br>初動且つ無限の概念<br>文化概念の抽出                                 |     |
|        | 総合、動静概念、<br>根本性、静的概念、一部                               | 二十一編                                         | 主体性原理                                                                 |     |
|        | 主要図表集                                                 |                                              |                                                                       | 912 |
|        | 著者履歴紹介                                                | 概要、詳細ブログ掲載                                   |                                                                       | 929 |
|        | あとがき                                                  |                                              |                                                                       | 993 |